



# 信友会会報

2011年7月

## <<6月例会より>>

2011年度第3回目の例会では、姜キョンミ副牧師に「韓国における教会生活」と題して韓国のキリスト教の成り立ちや、全人口の25%を占めているクリスチャンの教会生活の日常を伝えていただき、さらになぜ韓国ではキリスト教徒が多いのかを語っていただいた。

## 信友会 6月例会

### 韓国における教会生活

副牧師 姜 キョンミ

#### 韓国のキリスト教

2005年韓国統計庁の発表によると人口の約3割がキリスト教徒で、キリスト教が最大勢力の宗教である（プロテスタント信者が、カトリック信者の2倍）。

韓国の宗教人口は総人口の53.1%を占め、非宗教人口は46.9%である。このうち、仏教が22.8%、プロテスタントが18.3%、カトリックが10.9%、儒教0.2%となっている。プロテスタントとカトリックを加えたキリスト教全体では29.2%となっていて仏教より信者の数が多い。キリスト教信者数は約1,376万人となり、韓国は東アジアおよび東南アジアでの信者数では中華人民共和国、フィリピン、インド、インドネシアに次ぎ5位である。国民全体に占めるキリスト教信者の割合ではフィリピンと東ティモールに次ぐ東アジアおよび東南アジア第3のキリスト教国である。

なお、韓国で基督教（キドッキョ、기독교：キリスト教）といえばプロテスタントを指す。厳密な表現は改新教（ケシンギョ、개신교）だが、プロテスタントの教団・教会が「基督教」と自称する事が多く、信者数も多くなったため、これが一般的になった。カトリックは天主教（チョンジュギョ、천주교）と呼んで区別している。教会（キョフエ、교회）はプロテスタントの教会を指し、カトリックの教会は聖堂（ソンダン、성당）と呼ぶ。

海外に対する宣教活動が活発なことも韓国キリスト教の特徴で、2000年にはプロテスタントだけでも10,646人の宣教師156カ国で活動していた（カトリックは統計を公表していない）。この数字はアメリカ合衆国に次ぐ世界第二の規模である。とりわけ海外宣教に熱心なのはチョ・ヨンギ牧師率いる汝矣島（ヨイド）純福音教会で、南米や中央アジア、中東だけでなく、危険な朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）にも極秘裏に潜入しているといわれる。

福音派は極めて積極的な布教活動をする為、近年では世界各地（特にイスラム教諸国）においてトラブルに巻き込まれている。アフガニスタンにおける布教活動ではモスクの前でキリスト教の賛美歌を歌うなど、やや刺激的に過ぎる布教活動が見られたと報道されている。2007年ターリバーン韓国人拉致事件のような事件が発生した背景には、こういった刺激のかつ攻撃的な布教活動があったのではないかと指摘もある。

韓国国内では1970年代から80年代の民主化運動の原動力となる一方、同じ時期には仏教寺院や仏像に対する破壊活動を行う牧師や信徒が出るなど、他宗教への攻撃も積極的に行った。

このような過激な活動や行動によってなのか、年々キリスト教は減っていく一方で、仏教のほうが増えているという。

#### プロテスタント

1884年以来韓国に存在する長老派教会（長老教、Presbyterian）（大韓イエス教長老会）はプロテスタントのなかでも最古参であり、60人の長老を頂点とする韓国長老派教会は2000年末で228万人を数える。長老派同様、1884年以來の歴史をもつメソジスト派は1930年に大韓監理教（基督教大韓監理会）として独自組織となり、現在145万人の信者を有する。朝鮮戦争後は米国の強い影響下に汝矣島純福音教会など様々な教派が教勢を広げた。



韓国のあらゆるキリスト教会は、毎日午前4時30分または午前5時から早天祈祷会を行っている。熱心な徹夜祈祷と断食祈祷がなされ、韓国中に祈祷専門の祈祷院がある。

## 長老教会

1953年に長老教は保守改革派神学の大韓イエス教長老会と、自由主義神学系の韓国基督教長老会に分裂した。さらにイエス教長老会は1959年に合同派(福音派)と統合派(エキュメニカル派)に分裂した。

韓国の長老教会は、ペンテコステ派(聖霊派)の影響を受けたこともあって、積極的な伝道を繰り広げ国内最大級の教会に発展した。韓国において長老教会は主流的存在とも言える最大規模の教団群を形成している。韓国の長老教会の中でも、異言の祈りを積極的に勧める教会もあれば、異言を否定して知的理解を重視し、聖書研究に熱心な教会も存在する。

現在、韓国のおもな長老教会は次の通りである(信徒数順)。

- ・大韓イエス教長老会(合同)
- ・大韓イエス教長老会(統合)
- ・大韓イエス教長老会(改革)
- ・韓国基督教長老会
- ・大韓イエス教長老会(高神)
- ・大韓イエス教長老会(合同正統)
- ・大韓イエス教長老会(合同保守)
- ・大韓イエス教長老会(大神)
- ・大韓イエス教長老会(高麗)

上記は主な長老教会で、さらに多くの長老教会がある。最近、これらの分裂した長老教会の合同礼拝と集会などが試みられ、これからの長老教会の歩みがどのようになるのか注目されている。



## 礼拝

日曜日(主日)ごとの、毎週の礼拝はクリスチャンにとって、とても大切である。韓国のほとんどのクリスチャンは毎週の主日礼拝に出かける。それは信仰環境がいいということがあると思う。韓国では日曜日は仕事や学校の行事などはほとんどない。そのため、日曜日は休みでクリスチャンが礼拝を守れる環境としては、とてもいいのである。

毎週の礼拝は大事であり、それを守るのが信仰者としての義務であるとも思う。しかし、このことは、仕事が忙しく、また用事のために教会に来ることのできない人々を責めたり、非難するつもりはない。クリスチャンにとって礼拝は、信仰生活にとっても大切であるということ覚えてほしい。毎週の礼拝を大切に、祈りと讃美と感謝の日々を送ることを祈っている。

## 祈祷・集会

週日にも、祈祷会や各種集会がある。それらすべてに参加することは難しいことであるが、韓国では多くの人がそれぞれの集会に出席している。

「早天祈祷会」は、日曜日から金曜日まで、土曜日以外毎日ある。時間もかなり早く、夏の間は午前4時半から、冬の間は午前5時からである。日々を礼拝と祈りをもって生活することが昔から大切にされてきたからなのかもしれない。「早天祈祷会」は30分位の礼拝後、各自はその席でお祈りをし、帰りたい時に帰っていいことになっている。

「讃美礼拝」と「夕礼拝」は、日曜日の午後か夜に行われている。「讃美礼拝」は夕礼拝の代わりに行うことが多く、午後2時前後にある。早天祈祷会から始まる主日なので、夜7時ぐらいの夕礼拝まで教会にいたことが大変で、最近では多くの教会が讃美礼拝を守っている。それに伴い、夜7時頃からの夕礼拝は少なくなった。

「水曜礼拝」は阿佐ヶ谷教会の祈祷会にあたる。韓国は祈祷会ではなく、礼拝として守っている。普通の礼拝と同じであるが、少しコンパクトになっている。

「属会礼拝」は金曜日から集まりやすい時間に行われる。「属会」は阿佐ヶ谷教会の「組会」に近いものである。4~5家庭ごとに区切られ、その方々が共に、毎週集まり、礼拝を守っている。実質的には各家庭の代表者である方が集まり(主に主婦)5~6名の礼拝である。面白いことは一週間に「属会」のメンバーが読まれた聖書の章を数えて、1属は50章読まれた、2属は24章読まれたという感じで、週報に掲載される。ある意味、聖書を読むことを競争しているようである。献金額、参加した人数、聖書の読まれた数が毎週の週報に載っている。

「徹夜祈祷会」は金曜日の夜11時から夜中(2~3時)に亘って行われる(そのため土曜日の早天祈祷会を休みにしている)。教会や教会が持っている祈祷院に集まり、礼拝とお祈りの時をもつ。お祈りはテーマを掲げてお祈りをする。「ただ今の時間は、教会学校について祈ってください」とか、「日々の生活について祈ってく

ださい」とか、「教職のために祈ってください」などと司会者が指導して行う。お祈りの合間に讃美歌も歌ったりする。

この頃は「徹夜祈祷会」ではなく、「徹夜礼拝」としている教会が増えている。「徹夜礼拝」は午後 9 時から 11 時ぐらいに内容はほぼ同じで、時間が短縮されている。これらの司会は聖徒(韓国では信徒とはあまり言わず、聖徒と呼ぶ)や長老が担っている。

#### \* 祈祷院

韓国には大きな教会、或いは、教団で祈祷院を設けている。祈祷院とは言葉通り、お祈りするところである。教会の礼拝堂でいいのでは、という意見があるのかもしれないが、心静かにして、祈る環境が整えられていると祈りやすいというのが、韓国の教会である。だからなのか、自然が豊かな郊外にあることが多い。私の母教会(阿佐ヶ谷教会の半分の規模)にもソウルから 2 時間ぐらい離れたところに祈祷院がある。祈祷院で修練会(修養会)をやったり、夏期学校を行ったりした。

## 禁酒禁煙のこと

韓国キリスト教の基本姿勢は禁酒禁煙である。隠れてお酒を飲んだり、たばこを吸ったりする信徒もいると思うが、ほとんどの教職や聖徒(信徒)は禁酒禁煙を守っている。これを言われるとどきっとする方がいるのかもしれない。この禁酒禁煙については多くのことは話さないことにする。

## 献金

韓国の教会では献金のことを特に厳しく教える。献金は神様からの恵みに対する私たち、クリスチャンの神への感謝の表れであり、ある意味で“お返し”でもある。

日本の教会は「月約献金」を捧げているが、韓国の教会は「十分の一献金」を捧げている。これは、自分の収入の「十分の一」を献金するということである。クリスチャンの義務として、昔から大切に守られてきた献金である。収入の「十分の一」の献金なので、教会の財政がよくないということは小さな教会を除いてはあまりない。宣教費や伝道費として、多くの献金が用いられている。

「十分の一献金」についての聖書箇所をいくつかあげてみる。創世記 14 章 20 節、申命記 12 章 11、17 節、歴代誌下 31 章 5~6、12 節、ネヘミヤ記 10 章 38 節、12 章 44 節、13 章 5 節、アモス書 4 章 4 節、マラキ書 3 章 8、10 節などである。

韓国の教会の献金は「十分の一献金」以外に次のような献金が捧げられている。感謝献金、建築献金、宣教献金、クリスマス献金、復活節感謝献金、聖霊降臨日感謝献金、収穫感謝献金、誕生日感謝献金などである。

## なぜ韓国にキリスト教信徒が多いのか(私なりの考え)

まずは庶民から、指導者たちからの普及のこと、伝えられた時期のこと、今までの歴史のこと、国民性のことが上げられるだろう。

本格的にプロテスタント教会が韓国に伝えられたのは 1884 年以降である(その前はいろいろな教派など)。日本は 2009 年に 150 周年を迎えたので、韓国は 25 年遅れている。宣教師が韓国に入ってきたのと、日本などで留学生が洗礼を受けて、韓国に帰ってきて宣教活動をした事例もある。

スタートは日本より遅かったのだが、韓国は現在人口の約 25% がキリスト者である。その理由として、私なりに考えてみた。

先ほどに記したように、留学生などが帰ってきて、庶民の間に広まったことや宣教師の普及などによる、指導者層からの勧めがあった。また伝えられた時期だが、キリスト教が伝えられる少し前に伝えられた儒教が思うように普及できず、国からの弾圧があった。その時にキリスト教が伝えられ、増えていったのである。

また韓国の歴史は他国からの蹂躪に苦しめられ、踏まれ続けてきた歴史がある。中国やソ連、そして日本からの侵略され続けた韓国は、そのたびごとにより頼むのは神様であると信じてきたのである。

そして、特に注目したいのは韓国の国民性であると思われる。良いものを、また、良いことを家族や友達に伝えることに情熱的である。最初からあまり懐疑的に物事を考えないで、まず大切な人が勧めることを素直に信じるという国民性のことである。これは、決して韓国人が論理的ではない、ということではない。

十分に伝えることができなかつたり、私の考えもあるので、事実と違うこともあるのかもしれないが、少しでも、皆様に韓国のキリスト者のことを伝えることができたなら幸いである。

韓国でキリスト者であることは大変な事であると思う。もちろん、日本でも大変であるが。韓国は集会がいろいろとあったり、献金のことも厳しく言われたり、信仰者として制限されることも多い。他方、日本のキリスト者はまわりにクリスチャンが少なく、理解者が少ない中で信仰生活を送るには、時としていろいろな困難があると思う。

しかし、神様から希望を与えられ、恵みを与えられ、愛されていることを思うと本当に感謝である。神様への礼拝を大切に、感謝を告白し、神様からの愛を人々に伝える恵みの信仰生活をこれからも送りたいと願っている。

## 教会会堂掃除当番にご協力を！

阿佐ヶ谷教会では、礼拝を清らかな気持ちで捧げられるよう定期的に会堂の清掃を行っております。このうち座席については各部会が分担し毎週清掃のご奉仕をしております。

信友会も毎月1回の割合で分担しており、毎回3～4名で礼拝後30分程度をかけ掃除をしています。

当番については、信友会例会時に、都合のつく分担日に登録していただいています。しかし、例会出席者が25～30人と固定化し、高齢化も進んできており、現在は年間1人当たり2～3回の清掃のご奉仕をしていただいております。このような状況ですが、肉体的に厳しい80歳以上の方、肉体的重荷を負っている方は当番に加わっていただかない事を役員会で決定しました。実施時期は別途検討します。しかし、このままでは益々厳しい状態になりますので、信友会員約190名のうち当番対象の会員全員のご奉仕をお願いいたします。(例えば100名のご奉仕で一人2年に1回で済みます)

全員参加で主の宮を清潔にし、清らかな気持ちで礼拝を捧げましょう！ 担当 江口三雄